

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 事業の実施状況について

熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略検証委員会

令和5年（2023年）8月31日

○本資料は、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用して実施する事業についての報告資料です。

○同交付金を活用して実施する事業は、下記2点が前提となっていることから、これらを満たす事業を抽出したうえで、それぞれのプロジェクトとして取りまとめています。

- ・総合戦略に基づく事業であること
- ・その他の国の補助金等が該当しないこと

○前提として、総合戦略の基本目標ごとの令和4年度決算額及び令和5年度予算額は下表のとおりです。

基本目標		施策	R 4 決算額 (千円)	R 5 予算額 (千円)
1	＜移住・定住の促進と交流の活性化事業＞ 「国内外から人々を引き付けるまちを創り、安心して働くことができる雇用を生み出す。 ～移住・定住の促進と交流の活発化～	魅力あるしごとの創出と働く環境の整備 ----- 農水産業の振興 ----- 人材育成の支援と人材の確保 ----- 交流人口の拡大	34,372,126	35,361,752
2	＜少子化の克服と次世代育成事業＞ 安心して子どもを産み育てられるまちを実現する。 ～少子化の克服と次世代育成～	結婚・妊娠・出産支援の推進 ----- 子ども・子育て支援の充実 ----- 仕事と子育ての両立支援と若者の 経済的安定	33,677,377	34,843,803
3	＜地域の特性に応じた社会環境の創出事業＞ 多様な地域が形成され、安心して暮らせる地域 社会を実現する。 ～地域の特性に応じた社会環境の創出～	「多核連携都市」の実現に向けた 公共交通網の充実及び既存ストックの利活用 ----- 安心して暮らせるまちづくりの推進	108,274,447	114,640,638
計			176,323,950	184,846,193

○令和5年度は、下表に記載のプロジェクトが同交付金事業として採択されています。

※下記のうち、②は企業版ふるさと納税の活用により交付金の申請期間が2年間延長されている。

申請事業名	新規・継続 (事業期間)	R5年度 事業費 (千円)	R5年度 交付決定額 (千円)
デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）横展開型		334,692	167,346
①魅力ある農水産物・加工品を中心とした地場産品の販路拡大によるくまもと創生プロジェクト	継続 (R4～6年度)	64,700	32,350
②創業支援と地場企業の強化によるくまもと創生プロジェクト	継続 (R4～8年度)	140,258	70,129
③国際スポーツ大会を契機とした観光基盤整備プロジェクト (県との広域連携事業)	継続 (R4～6年度)	20,000	10,000
④花とみどりの魅力ある「森の都」再生プロジェクト	新規 (R5～7年度)	72,734	36,367
⑤民間活力を活用した健康づくり（介護予防）事業	新規 (R5～7年度)	37,000	18,500

【R4～R6年度採択事業】 ※第2期熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略 リーディングプロジェクトⅡの一部

海外市場に対する本市農水産物等の魅力発信や販路開拓を推進し、更なる輸出拡大を図るとともに、物産事業者を支援することで、熊本の素材を活かした食品加工品や工芸品等地場産品の販路拡大につなげ、地場企業の経営基盤の安定化を図る。



(2022年6月29日～7月12日)
マカオのニューヤオハン百貨店における、熊本・九州の
食品を販売するフェアの様子

（１）農水産物・加工品の海外販路拡大支援

- 輸出アドバイザーや相談窓口の設置、セミナー開催等によって輸出事業者のマーケットイン輸出（輸出先のニーズに対応した商品を生産・輸出する）への転換を推進する。
- 熊本市の生産品目の輸出可能性を分析する調査を実施し、ターゲット国や輸出重点品目を定めた輸出促進プランを策定する。
- 地理的優位性があり、日本食人気の高いアジアをはじめとする海外市場に向け、EC展開や観光と連携したプロモーション等により、認知度向上及び輸出拡大を推進する。

（２）その他販路拡大支援

- BtoB及びBtoC※の両面から物産事業者等を支援することで、長期的視野に立った販路拡大に繋げ、地場企業の経営基盤の安定化を図る。
- 農水産業を中心とするその他幅広い産業において、将来にわたり「しごと」を生み出すことで本市経済の活性化に寄与する。

※BtoB・・・「Business to Business」の略。企業間で行われる取引のこと。

BtoC・・・「Business to Consumer」または「Business to Customer」の略。

企業と消費者間の取引のこと。

KPI		基準値 (R3)	R4	R5	R6
①本交付金事業実施に伴う農水産物・加工品の輸出の増加額（千円）	目標値	－	20,000	25,000	30,000
	実績値	0	25,897	測定中	-
②本交付金事業実施に伴う農水産物・加工品の海外販路開拓数（件）	目標値	－	8	18	30
	実績値	0	18	測定中	-
③物産商談会開催事業を通じた商談成約率（％）	目標値	－	16.0	22.0	30.0
	実績値	13.0	測定中	測定中	-

【R5年度における取組】

- ✓ 農水産業者や加工品業者の海外輸出展開に向けた相談窓口での輸出支援に加え、輸出力に長けた人材の育成や、輸出に際して包括的かつ効果的に運用できる組織である「くまもと輸出促進ネットワーク」を利用し、実効性の高い販路開拓・拡大策を展開していく。
- ✓ そのほか、半導体関連企業の進出等で注目される台湾や米国、中国、香港、英国で商談会やプロモーションを実施するとともに、地域商社との連携事業も実施していく。

【R4～R6年度採択事業】 ※第2期熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略 リーディングプロジェクトⅣの一部

熊本地震からの復興需要の剥落やコロナ禍による地域の産業競争力の低下に歯止めをかけるため、創業や起業支援による新たな事業所の創出や企業の技術革新の支援により地域に活力を生み出すとともに、質の高い多様な雇用の場を拡大することによって若者の転出を抑制し、若者が活躍するまちを実現する。



ビジネス&スタートアップ支援拠点施設「XOSS POINT.(クロスポイント)」
(熊本市西区春日)

（１）創業支援

- 成長が期待される市域内のスタートアップ等の事業成長に対し、伴走的なサポートを実施し、将来の地域経済をけん引する企業の育成を図り、地域経済の活性化、雇用の安定確保に繋げる。
- イノベーションを持続的に創出する熊本市版スタートアップエコシステムを構築する。
- 令和4年度からリニューアルオープンした「XOSS POINT.（クロスポイント）」を本市における創業支援の中心として位置づけ、スモールビジネスからスタートアップ等まで幅広い支援を求める創業者が集い、繋がる場を創出し、創業やその先の事業成長へ繋げる新たな環境作りに取り組む。

（２）技術革新の支援

- 産学官連携により地場中小企業の技術革新や経営革新を支援し、高付加価値化した製品や新事業が次々に創出される環境を整える。
- スマートシティ推進のための官民連携プラットフォームを設置し、官民連携の活性化、イノベーション創発を促進することで、新規ビジネスの創出に繋げるなど、スタートアップやベンチャー等を含む企業の支援を図る。
- デジタル化などの新技術への対応や導入支援を行うことができる人材の育成を行うため、セミナー開催やデジタル技術の活用に向けた伴走支援などを実施する。
- 関連産業が多く存在するeスポーツの推進に取り組み、域内企業のeスポーツビジネスへの参入、eスポーツを活用した新事業展開によるイノベーション創出を促進する。

KPI		基準値 (R3)	R4	R5	R6
①くまもと森都心プラザビジネス支援施設を契機とした創業者数（人）	目標値	－	25	35	45
	実績値	18	28	測定中	-
②支援事業を通じたスタートアップ等による資金調達件数（件）	目標値	－	18	38	60
	実績値	0	28	44(見込) [※]	-
③支援事業を通じた製品化・事業化件数（件）	目標値	－	5	12	21
	実績値	0	7	測定中	-

※R5.7.31時点

【R5年度における取組】

- ✓ R4年度にオープンした「XOSS POINT.」を中心とした、創業者やスタートアップ等に対する支援だけでなく、学生のアントレプレナーシップ[※]を醸成する事業も実施予定。また、スタートアップ等による資金調達件数については、首都圏でピッチイベントを開催し、より多くの支援者に向けて発信することでKPIの達成を目指す。
- ✓ 助成制度による資金支援や、産学連携コーディネーターによる大学等の研究シーズと企業ニーズとの小規模マッチング会等の実施を通じ、さらなる新事業の創出を図る。

※アントレプレナーシップ・・・起業家精神。

【R4～R6年度採択事業】 ※第2期熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略 基本目標1の一部

2019年に熊本県が行った大規模国際スポーツ大会の大会運営ノウハウなどのレガシーを引き継ぎ、更に積み重ねるため、本県の強みであるバドミントンの国際大会を定期的を開催することで、交流人口の拡大と地域の活力の増大を図る。

あわせて、社会の変容に応じた新たな観光スタイルに対応することで、大会を契機に熊本を訪れた多くの方の県内周遊の促進や、新たな交流・関係人口の創出を図り、国際スポーツ大会を起爆剤とした更なる経済効果を生み出すことを目指す。

【R5年度における本市の取組】

✓BWF(世界バドミントン連盟)Super500熊本大会実行委員会への負担金拠出により以下の取組を行う。

- 大会運営に向けた体制整備を行うとともに、国際大会のテストとなるプレイベントの開催を通じた機運醸成の実施
- 熊本マスタースジャパン開催に向けた大会ホームページを通じた情報発信の実施
- 日本バドミントン代表チームの本県でのキャンプ実施に合わせた熊本市民とのバドミントン交流会の実施

※KPIについては、熊本県にて達成状況を管理しているため本資料においては割愛する。

【R5～R7年度採択事業】 ※第2期熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略 基本目標1,3の一部

令和3年度末から令和4年度初頭にかけて本市で開催した全国都市緑化フェアでは、県内外から多くの人々(来訪者数約168万人)が訪れ、賑わいが生まれると同時に花や緑に関する市民の意識が高まる機会となり、改めて花や緑が人々に与える影響の大きさを再認識することとなった。

本事業では、こうした賑わいの創出や機運の高まりを一過性のものに終わらせることなく、緑を感じる都市空間の形成や更なる賑わい創出、市民一人ひとりの緑化活動の向上等を図り、魅力ある「森の都くまもと」ブランドの再生を実現することで、花や緑を通じた中心市街地の活性化と回遊性の向上による交流人口の拡大や、地域の魅力や特性を生かしたまちづくりを推進し、ひいては将来的な移住・定住の促進に繋げる。



中心市街地の活性化
回遊性の向上による交流人口の拡大



地域の魅力や特性を生かした
まちづくりの推進

将来的な移住・定住の促進

(1) 都市空間緑化創出事業

- 花や緑を活用し、潤いと癒し、緑の豊かさを創出し魅力ある「森の都」を演出する。また、併せて、緑化の取組の紹介など広報活動も積極的に行い、市民の緑化意識を継続的に維持・高揚させていく。

(2) 花や緑の体験に関する事業

- 身近にある花や緑を知って学び、遊んで親しむ体験を通して、自然（資源）のあり方や利活用を考え、身近にある自然との新たな向き合い方を発見する事業を実施する。

(3) ステークホルダー育成事業

- 市民（ボランティア等）協働の修景花壇設置や、緑に関する講習会等の参加機会を提供することで、緑の大切さや緑化に関する知識の普及、既存ステークホルダーの意欲向上や、森の都を築く新たな担い手の育成を図る。

KPI		基準値 (R4)	R5	R6	R7
① 中心市街地における1日当り本イベント最大参加総人数/休日（ボランティア・市民団体キャスト含む）（人）	目標値	－	32,266	41,219	50,172
	実績値	23,313	未実施	-	-
② 花と緑に関連する熊本市全体のボランティア団体数や市民団体数（団体）	目標値	－	621	626	631
	実績値	616	測定中	-	-
③ 中心市街地における緑視率の割合（％）	目標値	－	7.14	8.57	10.00
	実績値	5.71	測定中	-	-
④ スポンサー花壇における協賛企業数（社）	目標値	－	20	22	24
	実績値	18	17 [※]	-	-

※R5.7.31時点

【R5年度における取組】

- ✓ ①については、R5.10.26～11.28の期間でくまもと花博2023を開催。土日祝日の集客は3万3千人/日を目標値とし事業を進めている。
- ✓ ②については、自治会（公園愛護会）や地域団体等に花の苗を年2回配布し、団体数増加を図る。
- ✓ ③については、R5.10に調査実施予定。
- ✓ ④については、現在募集中でR5.7.31現在で17社。増加傾向にあり、目標値を達成する見込み。

【R5～R7年度採択事業】 ※第2期熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略 基本目標3の一部

成果連動型民間委託契約方式（SIB）を採り、各ステークホルダーが連携しつつ共通の目標に向けて取り組むとともに、効果（データ）の見える化や行動経済学（ナッジ）を取り入れた働きかけを行うことにより、誰でも気軽に、自主的に健康づくりに取り組むことができる持続可能な環境を構築することで、誰もが健康で生きがいを持って暮らすことができるまちの実現を目指す。



運動指導のプロの力

楽しく、効果と安全性を備えた、健康意識の高まる指導と、適切な評価



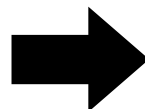
プロスポーツチームの力

継続意図の向上
地域の一体感の醸成
産業、年代を超えた影響力



メディアの力

高齢者に親和性の高い県内随一のメディアによるプロモーション



介護予防のイメージを変える

「たのしい」「カッコいい」

今まで参加少ない層にアプローチ

健康寿命の延伸

若い世代からの健康づくりにも寄与

（１）民間活力を活用した市主催の介護予防教室の実施

- 理学療法士等の監修による専門プログラムの開発
- プロスポーツチームと連携したプログラムの実施
- 成果連動型民間委託契約方式（SIB）によるプロジェクトの実施
- 市営・民間施設等あらゆる社会資源を活用し、通いの場のない地域から優先的に実施（通いの場の空白地域をなくす）

（２）プログラム終了後の活動継続の仕掛け

- 効果（データ）の見える化や行動経済学（ナッジ）を取り入れた活動継続の働きかけ
- 多様な運動継続の場（通いの場合含む）への移行支援

（３）データの活用

- プログラムを通じて収集した対象者の基本情報や運動機能評価のデータを分析し、対象者ごとの個別プログラムを提案するとともに、市のビッグデータ（介護保険、KDBなど）と併せて分析することで、プログラムそのもののアップグレードを図っていく

KPI		基準値 (R4)	R5	R6	R7
①厚生労働大臣が定める「基本チェックリスト」の改善 (運動機能に関する質問項目5項目のうち、3項目以上の該当者が、2項目以下となる) (70%の改善率) (%)	目標値	—	65	70	75
	実績値	0	測定中	-	-
②運動習慣がない者のうち、運動習慣を持つようになった者の割合 (%)	目標値	—	55	60	65
	実績値	0	測定中	-	-
③プログラム参加者の参加率 (%)	目標値	—	65	70	75
	実績値	0	測定中	-	-

【専門プログラム（ロアッソウェルネスプログラム）の概要】

✓理学療法士等の監修による専門プログラム

※1クール3ヶ月・12回（1回60分）の運動指導

※初回と最終回に運動機能評価を実施 個別プログラムを提案

✓R5年度は、概ね65歳以上の方450名を対象に介護予防教室を開催

【R5年度における取組】

✓現在、第1期（6月～8月）を市内6会場で開催（参加者173名）

✓今後、第2期（9月～11月）、第3期（12月～R6年2月）を実施予定

(参考) デジタル田園都市国家構想交付金の概要

